



YAMA NO
FUTOKORO

11

高島敏弘

脊振の百笑

山間部の魅力。
危機感を跳ね返すほどの、

自然が豊かな山間部・脊振村(現・神崎市脊振町)に生まれた高島敏弘さんは、大学を卒業後、役場で定年退職を迎えるまで働きました。退職して、実家の農地を引き継ぎ、長年抱いていた想いを胸に専業農家へ。その想いとは、合併される脊振村の自然の恵みや豊かさを伝え、「脊振」の存在を後世にも残すことでした。代々続いてきた農地を引き継ぎ、守り、次世代にわたすため、この地だからこそできる農業と林業という複合的な農業スタイルで山間部での営みを続けます。

農業

林業(原木椎茸)

中山間地域の魅力

高島さんが生まれ育った脊振村が、神埼町、千代田町と合併したのは2006年のこと。「平野部で人口が多いのは、神埼や千代田。合併に伴い山間部が見捨てられるのでは?という危機感があったから、魅力ある農産物を育て、山間部の良さを発信したいという想いがありました」と、高島さんは当時の心境を話します。高島さんがつくるのは、ピーマンや干し柿、森林を利用した原木椎茸など。特に原木椎茸は、原木の伐採や搬出、並べる作業など多くの労力が求められますが、年間約2,500kgの収量があり、安定した収入につながっています。



取組

◎取組 1

古くから脊振の五大産業と呼ばれる農産物のうち、高島さんは椎茸と干し柿の2つを生産しています。それに加えてピーマンも生産。山間部ならではの農業で、この地域の魅力や存在感を発信し続けようとしています。



◎取組 2

原木椎茸は、植菌から収穫まで、1年半という期間を要します。それまでにも木の伐採、搬出、並べる作業など、作業の量はたくさんあります。そうして収穫される原木椎茸は、肉厚で旨みがたっぷり。旬を待つ人がたくさんいます。



今後のチャレンジ



少しでも良いカタチで、次の世代へ。「気持ちだけは昔とまったく変わらないけど、体力が少しずつ落ちてきたね」と高島さんは少し寂しそうに話してくれました。元気なうちは、まだまだ挑戦を続けます。しかし、いつかは必ず次の時代がやってきます。農地やこの脊振の風景、その引き継ぎ方を模索中だと言います。

年間のスケジュール

